様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２７ 日現在

機関番号：３５４１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３８１１０６

研究課題名（和文）幼児教育における表現教育プログラムの開発－仏・米・日の包括的教育の事例と応用－

研究課題名（英文）Developing and Practicing Expressive Education Programs for Early Childfood Education.Case Examples and adaptation of France, America and Japan.

研究代表者
小笠原　文（Ogasawara, Fumi）

広島文化学園大学・学芸学部・准教授

研究者番号：１０５８５２６９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，人間の本能ともいえる「衝動」活動に着目し，幼児教育の表現教育活動のプログラムの開発と実践および検証を目的として行われたものである。
具体的には，フランス，アメリカおよび日本における幼児の表現活動，特に，障がい児と健常児の相互理解を促すための実践活動を事例に，最初期の集団生活における自己表現能力と他者理解並びにコミュニケーション能力を培うことを目標として，幼児教育における造形表現と音楽療法との相互交流による表現活動プログラムの開発と実践，並びにその検証を展開した。
本研究は，日・米におけるワークショップや日・仏における国際シンポジウムやフォーラムにおいて，高い評価を得た。

研究成果の概要（英文）：By focusing on the case studies in the expressive activities of young children in France, the United States and Japan, particularly on the practical activities for promoting the mutual understanding between children with disabilities and healthy children, the author of this study developed, implemented and verified the Expressive Education Programs, based on the interchange between formative expressions and music therapy in early childhood education, which had been carried out with the goal to nurture the ability of self expression, the ability to understand and communicate with others in the earliest stage of their group life.
This study was highly acclaimed in the workshops in Japan and the US, as well as in the international symposiums and forums in Japan and France.

研究分野：乳幼児教育

キーワード：表現教育　音楽療法　インクルーシブ教育

１．研究開始当初の背景

研究開始当初の背景として，わが国の学校教育現場における大きな変革の局面があげられる。重大な変革の一つとして，平成 23 年 8 月の障害者基本法の改正に着目した。改正障害者基本法では「可能な限り障害者である児童および生徒が障害者でない児童および生徒とともに教育を受けられるように配慮」するとされている。これは平成 18 年 12 月に国連総会で採択された「障害者の権利に関する条約」の「障害のある者とない者が共に学ぶことを通して，共生社会の実現に貢献する」という決議を受けて改正されたものである。

そこでは子どもの他者理解の心性やコミュニケーション能力を培う教育実践が最も必要とされているものであるが，現場ではその実践方法について模索が続いている。本研究ではその「手法」として障がいの有無を超えて，Fr.フレーベル，M.モンテッソーリ，C.フレネ等が主張する子ども自身の「衝動」活動に着目した。

起源的には，芸術(表現活動)教育と障がい児教育を結合させるフランス教育特有の手法があるが，今日この手法は健常児の他者理解，障がいをもった者とのコミュニケーション能力育成の手法として，ヨーロッパ諸国(特に，北欧 3 ヶ国)，アメリカを中心に急速に展開され，実践されている。

本研究は，このフランスの先駆的な芸術(造形)教育とアメリカにおいて強力に展開されている音楽療法の手法を「幼児教育」において相互交流を図り，結合させるプログラムの開発と実践であり，わが国において子どもの人間学の立場から，現象学的手法で検証するものであった。

２．研究の目的

本研究はフランス，アメリカおよび日本における幼児の表現活動，特に，障がい児と健常児の相互理解を促すための実践活動を事例に，最初期の集団生活(保育所，幼稚園，小学校)における子どもの自己表現能力と他者理解並びにコミュニケーション能力を培うことを目標とした，幼児教育における造形表現と音楽療法との相互交流による表現活動プログラムの開発と実践，並びにその検証を研究の目的とした。

３．研究の方法

本研究では表現活動について，触覚的活動・聴覚的活動・視覚的活動の 3 方向からアプローチし最終的にはこれら諸活動を統合したプログラムを開発するものである。対象児は①乳幼児②年少児③年長児～低学年児童④障がいを持った乳幼児および低学年児童とする。実施場所は広島文化学園子ども・子育て支援研究センター（乳児)、公立保育園（幼児)、公立小学校（低学年児童）とし、プログラムの実施と検証を行いながら、最終的には総合的なプログラムを開発するというものであった。

４．研究成果

⑴26 年度は広島文化学園大学「子ども・子育て支援研究センター」施設において乳幼児の行動観察を行いその結果を基盤として、予備的な活動を行った。また、ちゅーりっぷプレイスクール（広島市安佐南区）の協力のもと、3～5 歳児と予備的な表現活動を行った。

⑵27 年度は，本研究を学術的に深化，検証するために１）8 月東広島市立暁保育所にて年長児を対象とした打楽器即興音楽活動を実施。２）9 月東広島市立下黒瀬小学校「子育て講演会」にて全校児童４００名と保護者を対象とした即興音楽活動を実施。３）2 月広島大学附属幼稚園にて年少・年中・年長児と保護者を対象とした打楽器即興音楽活動実施。その後、学術研究機関の評価・検証を受けた。(広島大学　幼年期研究センター)

また、5 月には、乳幼児を対象としたスペクタクル・ヨーロッパビエンナーレ「はじめてのであい」を主催する劇団 ACATA の A.デュフォス氏と L.デュポン氏を招聘しての国際シンポジウムにて、指定討論者としてフランスの芸術教育について、主に子どもの「美的経験」を重視した思想と実践について発表した。

8 月には１）米国ハワイ州の公立小学校 Lefua elementary school　スクールカウンセラー　Dayle Matsushita と面談し、ハワイ州の特別支援学級の現状や問題点を検証。特別支援教育を受ける児童に音楽を用いた活動を提供し、実践方法に関する意見交換を行う。小学校における障害児を対象としたカウンセリング実践と教室内での活動を見学。２）同じくハワイ州にある非営利団体 Soundying Joy Music Therapy . Inc.にて自閉症児を対象とする個人音楽療法を見学。米国認定音楽療法士 Kazumi Yamauchi MT-BC と障害児と健常児が共に学び合うための音楽療法実践について意見交換を行った。

さらに、10 月には香港 Wu Kwai Sha Youth Village にて開催された The 11th

International Expressive Arts Therapy Association Conference に参加。１）アルゼンチンで芸術を用いた療育を実践している Graciela Bottini PhD,より表現アートを用いた学生との関わり方についての実践方法を学ぶ。２）米国 Lesley University 教授 Mitchell Kossak PhD.氏より表現芸術を用いた統合的な実践方法を学び、日本での現状報告及び今後の課題について検討した。

（3）28 年度は，主に発信の年であった。

・3 月に第 7 回ヨーロッパ・ビエンナーレ「はじめてのであい」～アート、乳幼児、スペクタクル～のフォーラムでの指定討論。（フランス語での発表）乳幼児期の美的感性について、保育園や幼稚園の活動の中でどのように培われるかを発言した。「体験型」活動と「経験型」活動に着目して論を展開した。

・5 月には第 69 回日本保育学会にてインクルーシブ保育の活動として、打楽器を用いた自由な表現活動を提唱。東広島市立暁保育園と広島大学附属幼稚園での実践を報告した。

・9 月には、第 55 回大学美術教育学会において、就学前教育・保育機関で行われる諸活動を「体験型」と「経験型」に分類して検証。子どもが「美的感動」を得る活動とはどのようなものであるかについて発表を行った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 4 件）

① 小笠原文，乳幼児の芸術活動に関する考察－フランスにおける近年の動向に着目して－，広島文化学園大学大学院教育学研究科　子ども学論集（査読無）第 3 号，2017 年，63-72 頁

② 小笠原文，子どもと芸術教育―フランスにおける近年の動向とその基礎理論―，中国四国教育学会 教育学研究紀要（CD－ROM 版 査読有）第 61 巻，2016 年

③ 小笠原文，乳幼児の美的経験「芸術の教育的根源について」からの考察，広島文化学園　子ども・子育て支援研究センター年報（査読無）第 4 号・5 号合併号，2015 年，21-26 頁

④ 狩谷美穂，大学生を対象としたリズムによる即興音楽作り体験後の意識調査―障害児と健常児が共に学び合うインクルーシブ保育・教育を目指して－，広島文化学園子ども・子育て支援研究センター年報（査読無）第 4・5 合併号，2015 年，13-20 頁

〔学会発表〕（計 7 件）

① 小笠原文，フランスにおける美的教育の動向～「芸術文化の強化』から『芸術文化教育構想』へ～，第 53 回大学美術教育学会，2014 年 10 月 4 日・5 日，福井大学（福井県　福井市）

② 小笠原文，子どもと芸術の関係性－子どもの美的経験について－，第 68 回日本保育学会国際シンポジウム指定討論，2015 年 5 月 9 日・10 日，椙山女学園大学（愛知県　名古屋市）

③ 小笠原文，子どもと芸術教育－フランスにおける近年の動向とその基礎理論－，第 67 回中国四国教育学会，2015 年 11 月 14 日・15 日，岡山大学（岡山県　岡山市）

④ 狩谷美穂，在宅医療を受ける家族交流会での音楽療法，第４７回日本芸術療法学会，2015 年 11 月 28・29 日，目白大学（東京都　新宿区）

⑤小笠原文，国際フォーラム指定討論 Rapport sur la sensibilite esthetique des enfants developpe dans l'etape de l'enfance-L'emotion esthetique des enfants dans les activite a la creche collective et a ecole maternelle, 7e edition des PREMIERE RENCONTRES: Bienneale europeenne en Val d'Oise-Art,petete enfance et spectacle vivant 2016 年 3 月 30 日（ヴィリエール・ル・ベル市，ヴァル・ドワーズ県，フランス）

⑥小笠原文，狩谷美穂，障がい児と健常児が共に学び合うインクルーシブ保育‐表現活動の可能性に着目して‐，第 69 回日本保育学会，2016 年 5 月 7 日・8 日，東京学芸大学（東京都小金井市）

⑦小笠原文，乳幼児期に育まれる子どもの「美的感性」に関する一考察－就学前教育・保育機関における実践活動の中で得られる「美的感動」に着目して，第 55 回大学美術教育学会，2016 年 9 月 24 日・25 日，北海道教育大学（北海道　札幌市）

⑧狩谷美穂，総合失調症患者 A 氏の表現アートセラピー活動における事例－芸術表現からみる人生の移り変わり－，第 48 回日本芸術療法学会，2016 年 11 月 19 日・20 日，多摩美術大学（東京都　世田谷区）

〔図書〕（計 2 件）
①鈴木幹雄・佐藤昌彦（編），小笠原文　他 7 名，表現教育にはそんなこともできるのか－教師たちのフレキシブルなアプローチに学ぶ－
第 2 部 7 章「『原初的なるもの』を題材とした表現教育の提案－フランスにおける教育実践を例に－」2015 年，55－65 頁

②小澤基弘（編），小笠原文　他 17 名，越境する表現－さまざまな場でのドローイング実践とその効果－
第 4 章 2 節「フランスにおけるドローイング事情－『描く』という表現　フランスの美術教育から考える－」，2016 年，157-166 頁

６．研究組織

(1)研究代表者
小笠原　文（Ogasawara,Fumi）
広島文化学園大学・学芸学部・子ども学科　准教授
研究者番号：10585269

(2)研究分担者
狩谷　美穂（Kariya, Miho）
広島文化学園大学・看護学科・看護学部
非常勤講師
研究者番号： 60585272